

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191700158		
法人名	株式会社アライブ		
事業所名	グループホーム椿		
所在地	岐阜恵那市山岡町下手向1620-2		
自己評価作成日	令和6年2月20日	評価結果市町村受理日	令和6年5月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index_nhp?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigvossvoCd=2191700158-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	令和6年3月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ともに笑い、ともに感じ、ともに生きる」の理念のもと、当施設は認知症の方が、車椅子生活となっても、安心して生活して頂ける設備を整えています。看取り介護を含め、ADLの変化による居住環境を変えることなく、慣れ親しんだ場所で生活を続けていく事ができます。住む人・働く人・訪れる人、すべての人が心落ち着き癒され、五感で想いを感じる建物と庭園が一体となった和モダンの造りとなっています。感染症予防に努めながら、自治会のご協力を頂き、地域行事への積極的な参加や、地域の方を交えた施設行事を計画実施し、入居者様と地域の皆様が、顔なじみの関係となれるよう、職員一丸となり取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者は地域と積極的にコミュニケーションを図りながら、中学校の体験学習につなげたり、地域の商店の移動販売車巡回を依頼して、買い物を楽しめるよう検討している。地域社会資源の活用や、災害時には地域の公民館を避難場所として開放してもらうなど、地域密着の運営に努めている。各種委員会を設置し、職員は何らかに所属している。職員は、ユニット間の隔たりなくチームワークで動き、会長も職員と共に利用者のために色々な物を手作りするなど、事業所一丸となって利用者を支えている。職員が働きやすい環境作りに努め、理念を実践している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
46	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、活き活きと働いている (参考項目:10,11)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ともに笑い、ともに感じ、ともに生きる」という理念のもと、地域の中でともに暮らす家族のような関係性が作れるよう日々努めています。	新任研修の際に理念について丁寧に説明し、理念に基づいたケアの実践の意識化を図っている。業務日誌の上部に理念の文言が明記しており、職員は日々、確認し全職員で共有しながら、実践できるよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	施設での行事や地域の行事にお互い参加させていただき、交流の機会を多く設けるように努めています。今年度は当施設での中学生体験学習や町内ふれあい交流会に参加させていただきました。また、こども110番の看板を設置しました。	自治会に加入しており、班長から広報誌や融雪剤の配布がある。町は全世帯が「こども110番の家」として位置づけており、事業所は看板も掲げている。管理者が中学校長と交流の機会があり、生徒の体験学習を受け入れている。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議のなかで入居者様の生活状況や運営状況などをお伝えしています。また地域の行事など情報交換に努めています。地区役様・ご家族代表様・市高齢福祉課職員様にご参加していただき、ご意見ご要望を伺いサービス向上に生かせるよう努めています。その他ご家族様には会議資料を送付し情報発信に努めています。	運営推進会議は隔月に開催し、地域から区長と副区長、市担当者(包括支援担当)、家族等の参加を得ている。運営状況、事故報告、行事報告と予定を会議次第とし、参加者の意見を運営に活かしている。会議の配布資料は全家族に送付している。昨年課題であった議事録整備に努め、家族も意見を出しやすいよう工夫している。	
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市高齢福祉課職員に運営推進会議に参加していただき担当者との情報交換を行っています。また市主催の研修会やイベントには積極的に参加しています。コロナ禍においては、予防物品などの相談など多岐にわたりご協力いただきました。	市担当者とは日常的に情報交換し、各種補助金活用の情報や申請手続きの助言を得ている。行政主催の認知症サポーター養成研修の参加依頼に応え、認知症の具体的事例を伝えることもある。運営が円滑に行える連携ができています。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修やマニュアルにて職員に周知しています。また運営推進会議にて「身体拘束適正化委員会」の議題として取り上げさせていただきました。現管理者主任以降、身体拘束は一切行っていません。	定期的に身体拘束適正化委員会を開催している。研修会で全職員に拘束をしないケアの周知を図り、資料も充実させている。介護度4、5の利用者が3割強であるが、毎月の全体ミーティングで事故内容の分析と改善を話し合い、支援方法を工夫し拘束ゼロに努めている。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修やマニュアルにて職員へ周知しています。職員のメンタル面も考慮し、必要に応じて声掛けや面談などにて対応しています。	身体拘束適正化委員会と併せて虐待防止についても話し合っている。虐待に繋がることのないよう、職員一人ひとりが虐待・身体拘束チェック表で自らのケアを自己覚知し、アンガーマネジメントについても学びながら、身につけられるよう取り組んでいる。	令和6年度から、虐待防止委員会の指針の整備、研修の実施等が義務化となり、明確化が必要となった。運営規程に定める事項としても、拘束ならびに虐待について委員会の再編と議事録の整備を準備中である。その取り組みに期待したい。

岐阜県 グループホーム椿

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議やマニュアルにて職員へ周知しています。また自主的に地域で行われる研修などへの参加を促しています。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の前にはご家族様に施設見学をしていただき、契約について説明を行っています。ご不明な点等お伺いしご理解ご納得していただけるよう努めています。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様には入所時や面会時にご要望を確認しています。内容を職員間で共有し入居者様の生活がより良くなるよう努めています。また意見箱を設置し、ご家族様のご意見を頂けるよう努めています。	運営推進会議の議事録と共に、運営状況や今後の予定、行事報告として利用者の様子が分かる写真を添えて、送付している。面会時や電話で意見や要望を聞き、管理者の携帯電話でも直接、話しができることを伝えている。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会議の開催時には代表者、管理者を交え職員間での意見交換を行い反映しています。また、年2回の職員個別面談にて意見を徴収し反映しています。	管理者も現場に入り、日々、職員の意見や提案に耳を傾け、速やかに改善につなげている。毎月の定例会議で代表者、管理者、パート職員も含め、夜勤者以外全職員が集まり、各委員会報告やヒヤリ・事故報告等、意見交換しながら、運営に反映させている。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	代表者、管理者が現場に入ることで職員の努力・勤務状況の把握に努めています。年2回の人事考課シートや個別面談を通じ、各自が向上心を持って働けるよう職場環境の整備に努めています。	職員休憩室があり、休憩時間がきちんと確保されている。労働規約に産休、育休等が明記され、現在、取得している職員もある。人事考課制度があり、職員は「貴方の思いシート」を提出している。管理者は個々の思いを拾う姿勢で職員に寄り添い、就業環境の整備に努めている。	
12	(10)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ユニットリーダーや居室担当、委員会活動などスタッフ一人一人に役割や課題を持たせ、責任をもって業務にあたるよう指導しています。併せてOJTの実践により質の向上に努めています。また外部研修参加などへの受講支援をおこなっています。	資格取得を奨励し、研修受講の際はシフトに配慮している。資格手当があり、補助支援に該当する情報の提供もしている。全職員がいずれかの委員会に所属し、役割とやりがいを持って従事できるよう、人材育成に努めている。技能実習生には翻訳アプリ等を活用しながら、OJT実践でスキル習得に繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	普段からの情報交換や研修会やイベント参加などを通じ交流させていただき、外部との繋がりをもつほか、お互いが質の向上できるような体制づくりに努めています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「ともに笑い、ともに感じ、ともに生きる」という理念のもと、安心して暮らしていただける家族のような関係性が作れるよう日々努めています。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所前の面談や入所後の交流の中から、ご本人様の暮らしへの希望や意向の把握に努め、ケアプランやサービス実践に反映していけるよう努めています。	管理者がケアマネジャーも兼ねており、入居前に本人と家族と面談、アセスメントを行い、入居後に思いや意向の再確認をしている。在宅時は一人で散歩を楽しんでいた人、家族の事情で入居したが在宅復帰を望んでいる人など、段階を踏みながら利用者の思いが叶うよう支援している。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議や普段の会話の中から、ご家族様やご本人様のご意見ご要望を反映し、介護計画を作成するように努めています。担当者会議参加が難しいご家族様には、電話やメースなどで状況報告すると共にご意向を確認させていただきました。	コロナ禍で運営推進会議の開催や担当者会議への家族参加を自粛していた。電話やメール、面会時の玄関先等で意見を聞き、家族の意向を反映させた計画を作成している。新年度から介護ソフトを導入し、これまで以上に家族や利用者の意向に沿った介護計画作成をめざしている。	コロナ禍で家族との交流が減り、家族からも説明不足の声がある。今後、地域の感染症拡大状況を見ながら、担当者会議への家族参加を徐々に復活させ、家族も共に計画作成に参画する取り組みに期待したい。
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の申し送り、または介護記録や業務日誌などを記入し、職員間での情報共有を行う中で日々の実践や介護計画の見直しに努めています。	介護記録は介護計画の支援内容を常に意識し、連動性を保った上で、職員は計画に沿ったケアを実践している。日々の利用者個々の体調、食事、排泄等の記録はタブレットに入力し、音声入力の活用も併せながら、どの職員も使いこなしている。記録内容はモニタリングに反映させている。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のケア方法や関わりに固執しがちであるため、「他の方法があるのでは」と職員に提案し、ユニットミーティングなどで検討し、サービスの多機能化に取り組んでいます。	家族の同意を得て、ご飯をパン食に替えて提供することもある。また、地域の移動販売をしている商店に掛け合い、事業所への巡回を依頼するなど、利用者が買い物を楽しめるように話しを進めている。	

岐阜県 グループホーム椿

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人様が在宅での生活により近い暮らしができるよう地域資源を把握し、できる限り利用させていただき、ご本人様の意向に沿えるよう努めています。最近では町内の公立図書館へお連れし、図書の貸し出しをしていただきました。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医については入所時に継続か変更かをご家族様と相談します。必要に応じて職員の同行もいたします。かかりつけ医との連携を図り、適切な医療が受けられるよう支援しています。	協力医の往診対応がない為、利用者の約8割ほどが、従前のかかりつけ医の往診や他のクリニックへ家族同行にて受診している。医療機関の変更希望には手続き等の協力をしている。今年度入居の利用者が、市のすこやか健診の受診対象から外された為、今後の検討課題としている。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者様の状態変化には早期に対応し、入院期間の短期化に努めています。また搬送先病院とは連携室を通じ情報共有に努め、入退院やその後の受診が円滑に行えるよう努めています。	利用者の急変時には、管理者と看護師が対応している。入退院等は管理者が家族と相談しながら、病院担当者や情報共有を行い、入院ができるだけ短期間となるよう支援している。退院後のケアを主治医と相談しながら、円滑に受け入れできる体制を整えている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重症化・終末期の方針をご家族様から聞き取り、施設で行える対応について説明をします。その後は状態に応じて何度もご家族様の意向を確認し、かかりつけ医や入院病院の協力のもと、施設での看取り介護、もしくは他施設や医療機関への転居を相談します。	契約時に重度化や看取りについて家族に説明をしている。利用者の状態を見ながら、家族の意向を再確認し、事業所での看取り希望か、医療機関を選択するかを家族の心情にも寄り添い、確認している。看取り後には、グリーフケアだけでなく、職員の精神面のサポートにも力を入れている。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者様の急変や事故発生に備え、管理者・看護師へのオンコール体制を整え、定期的な実技指導などを行い実践力の向上に努めています。また、緊急時マニュアルを作成し、有事には慌てず的確に対応できるよう周知しています。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回(1回は消防署立ち合い)の防災訓練を行い、災害時対応ができるよう徹底しています。また、市の防災訓練への参加、並びに運営推進会議での、災害時の協力体制などについて随時確認をしています。	防災訓練には利用者も参加している。寝たきりの利用者には、リクライニング車椅子を用意している。運営推進会議の際に、地区の住民に協力を依頼している。事業所で火災が発生した場合には、地域の公民館が避難場所として利用できるよう、住民の理解も得られている。BCPIは作成中である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の会話の中から、その方にあった言葉かけを行い、尊厳を守れるよう努めています。行き過ぎた言葉かけを発見した際は、なぜそのようになったかを職員同士と一緒に考えるようにしています。	新人教育の中で接遇研修を実施し、現場でも対応方法について指導している。事業所には、男性用便器の設置もあり、入浴支援では、同性介助の希望に応じている。利用者の尊厳を守るために、不適切な言葉遣いに気づいた時には職員間で注意し合うよう努めている。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活のご様子や会話の中から、想いや希望を把握し、ご本人様が自己決定できるよう支援しています。特に居室担当者には入居者様の良き代弁者となるよう支援してもらっています。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の決まりや都合ではなく、入居者様それぞれのペースや生活リズムを大切にし、支援させていただいています。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の配膳下膳などその方の出来ること行っていただきます。在宅生活での食習慣を大切に、希望の方には自己負担になりますがパンを提供することもあります。委員会の活動により、行事食など食べる楽しみの機会を増やすことができます。	配食業者から届く、湯煎して提供する副食を活用している。主食と汁物は職員が作っている。給食委員会で食事の内容を検討したり、利用者の希望を聞くなど、食べる楽しみを増やしている。会長が五平餅焼き器や流しソーメン道具を手作りして、おやつレクを盛り上げている。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量記録や体重測定をもとに、個々の栄養状態を把握し、食事の提供を行っています。水分補給ではご希望のある方は好きな飲料を用意して提供しています。また、個別のおやつなどもご家族様にお届けいただいています。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行い、口腔内の状態把握ができるように努めています。また、口腔ケアをご自分で行えるよう、道具の選定など支援しています。	毎食後の歯磨きを励行し、自分で出来る人は見守り、補助が必要な人にはサポートしながら、口腔内の清潔保持に努めている。歯ブラシはその人に合った適切な種類を選定し、夜間は義歯を預かり管理している。必要に応じて、本人と家族の希望で歯科医を受診している。	

岐阜県 グループホーム椿

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握することで、失禁による不快感の軽減ができるよう努めています。可能な限りトイレでの排泄ができるよう、おむつ業者とも連携し、居室担当者を中心に検討をしています。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的には入浴日を決めていますが、その日の気分や状態に合わせて、曜日の変更や入浴順番を配慮し、希望に添えるような支援をしています。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入所前の生活習慣や生活リズム、その日の体調に合わせて安楽に過ごして頂けるよう支援しています。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別カルテに薬剤情報を保管し随時閲覧できるようにしています。また、新規薬については日報などで申し送りを徹底しています。特に向精神薬の服用に関する場合は、24時間シートを活用し様子観察と主治医への情報提供に努めています。	職員は薬剤情報にて薬効を把握しており、変更時には、看護師からの伝達や申し送り等で全職員に周知している。ヒヤリハットに落葉が多く、いろいろな方法を検討しながら防止に努め、改善している。向精神薬の服用時は様子観察を徹底し、主治医に報告している。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までの生活習慣から、趣味や楽しみを把握し、可能な限り実現できるよう努めています。最近では食後の台拭きや床掃除が皆さんで行えています。暖かくなったら中庭の花壇を開始します。	利用者の役割や趣味等を、毎日の暮らしの中で実現できるようにしている。テーブル拭き、床掃除、冬の間中断していた花壇やプランターの花の手入れ等、出来る人が出来る事を楽しみながら行っている。趣味の編み物を継続している人、針仕事が得意で布巾を縫う人もある。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員と一緒に周辺のお散歩など随時実施しています。来年度からは外出行事を増やし、ショッピングなどを予定しています。ご家族様には外出外泊可能とお伝えしてありますが、受診以外での外出はほとんどありませんでした。	コロナ禍で様々な外出行事は自粛していたが、事業所周辺の散歩は継続している。始めは職員が寄り添って出かけるが、散歩を習慣にしていた利用者には、徐々に離れて見守り、一人散歩が少しずつ出来るようになってきている。出会う人と挨拶を交わしながら、継続につなげている。今年は花見のドライブを予定している。	

岐阜県 グループホーム椿

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金所持を希望される方以外は、施設の小口現金にて対応しています。ショッピングの際には、現金をお渡しし、支払いをしています。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持参し、家族やご友人との電話を他の住む方もおられます。ご本人様の希望があれば、職員が間に入り施設の電話でご家族様に電話をすることがあります。ご家族様にはビデオチャットのご案内をしていますが、今年度の実利用はありませんでした。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	開放的な共有空間で、各所に椅子やソファを設置しています。照明は暖色系で温かみを感じられ、南向きの窓からは外光を取り込んでいます。中庭を開放し園芸を楽しむことができます。一年を通じて四季を感じていただけるよう、施設内装飾もしています。	ユニット毎に広さや明るさが異なり、利用者は、自由に行き来し好きな場所で過ごすことができる。全館バリアフリーとなっており、車椅子でもウッドデッキで外気浴を楽しめる。浴室は脱衣室が広く、機械浴と個浴2つで対応している。リビングの一角に会長手作りの大きな鳥居と神社があり、鈴を鳴らして利用者が自由に参拝している。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースではひとりの時間も確保できるよう、テーブルから少し離れた場所にソファを設置。気の合う仲間同士でも過ごすことができるように座る位置などに配慮しています。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族写真を飾ったり、使い慣れた家具や道具を持参して頂き、新しい環境の中でも居心地よく感じて頂けるよう努めています。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人様の意志に対し、残存機能を活かしながら、自立心が向上するような生活を職員と共に考え支援しています。		